

平成 20 年 9 月 18 日

関係者 各位

緑の保全分科会 磯貝 猛

里山ボランティア講座について

今回実施予定の里山ボランティア講座の目的について、9月17日の分科会で内容などの確認を行いました。この目的を分科会の今後の統一見解といたくよろしく申し上げます。

[1]目的： 私たちの調査した市街化区域内の樹林のデータを活用して、今後整備予定の「仮称：樹林バンク制度」や「市民の森制度」の創設準備のため、市内で活動している各ボランティア団体の支援により里山整備の人材育成と講座終了後の里山ボランティア団体の立ち上げまでの支援活動を行うことを目的とします。

[2]経緯： 私たち市民交流サロン「緑の保全分科会」は昨年から市街化区域内の緑の保全活動を行う目的で、まず杜さんの調査をしました。

「ふるさと生駒」(生駒民俗会)によると「杜さん」は 94 箇所ありましたが、その内市街化区域内の「杜さん」を調査した結果、現在残っている樹林、祠、石仏などを整理すると 34 箇所が確認できました。

次に樹林調査について航空写真を参考に市街化区域内を 6 エリアに分けて、全員で調査エリアを分担し写真上に写る緑の部分を現地調査しました。

市街化区域内の樹林(杜さん、寺社林、屋敷林、集合住宅の共有林、山林型樹林、段丘崖樹林など)を分類しながら 167 箇所の調査を完了しました。

全員で調査結果をまとめ、残したい樹林を整理すると 5 本のラダー(緑の帯)ができあがり、24 箇所の樹林を私たち分科会の資料としてデータ整理されております。

以上